

しいのき



御所人形

人形に込めた祈り

名誉館長 三 隅 治 雄

当館恒例のおひなさま展も、おかげさまで高い評価を得て、全国から見学者で賑わっていますが、いま見るような華麗な雛壇飾りが登場し始めたのは元禄時代ごろといわれています。

遡れば、平安時代には、女兒がヒイナとよぶ男女一対の紙人形をつくって遊ばせていたものが、高貴な内裏雛を飾り、壇の数を次々増やし、官女・隨身などの従者やさまさまの調度類を配置するまでになったのは、女兒の美しい成長を貴族文化への憧憬と重ね合わせて表現した人々の祈りの成果かと考えられます。江戸中期には仏師なども人形制作に携わり、雛人形共々美術的な人形が誕生しました。京都生まれの御所人形もその一つで、白磨きの肌に、大頭で丸々した智・体揃った無邪気な姿態には、生まれた男児よかくあれかしと祈る心が込められているようです。

古文書つづり

記憶消失 ほとんど人災

「ない」とされていた医薬品使用の資料が倉庫の片隅に放置されているのが見つかったですとか発表では20万なのに実は80万だったですとか、入金的事实はあるのに誰が払ったのか確認できない等々、近頃世上を騒がせた一部の事件は「情報の不誠実な管理」が問題の根幹となっています。

文書や記録が後世に伝えられていく過程をみますと何度も消滅の危機に直面しているのが普通です。特に危険なのは用の済んだ直後。今と同じで役割を終えた通信文などはすぐに廃棄されてしまいます。とはいえ帳簿や証書の類は後々のために取っておかれる場合が多いのですが、それとて不適切な保存や過度の利用により傷んだりすれば捨てられかねません。地震や洪水など大きな天災の後に古文書の被害が話題になることもある一方、現実にはそれははるかに超える量が意図的もしくは無関心のため廃棄されてきました。

一 同 縣 足 羽 郡 小 渡 村 地 所 質 入 書 入 建 物 船 舶 書 入 質
公 證 割 印 簿
右 明 治 十 七 年 九 月 以 前 係 分 紛 失 付 公 證
ヲ 受 タル 者 ア ヲ ハ 本 月 三 十 日 迄 角 折 村 外 六
ケ 村 戸 長 役 場 へ 申 出 へ ン

実際のところ資料によっては天災より人災の方が被害甚大であり、特に何らかの変革期は存亡の境目。敗戦前後に行われた記録の焼却だけでなく、現在でも代替りや引越などの折に相当数の資料が散逸・消滅してしまった話がしばしば聞こえてきまして、そのたびに古文書担当として非常に悔しい思いをさせられます。

先人から受継いだ文化財を大切に保存するとともに現代を物語る記録も万全を期して後世へ伝えていきたいものです。

▲この場合は天災(台風)の可能性が高いものの、管理状況が適切でなければ人災の側面もある。なお江戸時代の古文書は近場の資料が大多数だが、明治以降は全国的内容も含むのが特徴。

中野往來

お経塚

中野区江古田2-14

新青梅街道沿いにある江古田四丁目交番の角を北東に入り、1つ目の角を左に曲がり道なりに進むと「お経塚」があります。この塚は、江戸時代初めの古文書に“古塚”と記されている古くからある塚です。現在は、道路より少し高い所にお地藏さまと馬頭観音があるという感じですが、大正時代に道路工事で削られるまでは、人の背丈ほどある塚でした。塚の上の経塚地蔵とも呼ばれる地蔵尊は、舟形光背を持ち、“武州多摩郡江古田村念仏講中元文三年”(1738)、隣にある馬頭観音は“安永五年”と記されています。

大正時代後半に道路工事が行われ、土を掘り起こした際、お経を入れる経筒と人骨が出てきました。このことから、それまでは「古塚」と呼ばれていたのが、「お経塚」と呼ばれるようになりました。

このお経塚がどのようないきさつで造られたの

かは、はっきりしていませんが、二つの説が伝えられています。

文明9年(1477)、現在の環状7号線道路辺りから、哲学堂公園辺りにかけての新青梅街道沿い一帯が、太田道灌と豊島氏一族が戦った江古田原沼袋の合戦の戦場となりました。そのため、この戦いで亡くなった人々を弔うため築かれた「豊島塚」が、周辺にいくつも伝えられています。お経塚もその一つだと言われています。

また、東福寺が以前、別の場所にあったとき、火災に遭い、焼けた経文を埋めた塚であるとも伝えられています。



大地に眠る歴史

中野区の遺跡(4)

縄文時代の豊かな森林はクリやクルミなどをもたらし、人々の食生活は旧石器時代に比べてより安定し定住性も高まりました。地面を掘り下げて柱を立てる竪穴住居も発達し、集落をつくり暮らすようになります。

江古田の森の地下に眠る江古田遺跡は、縄文時代の大集落です。森の保存のため発掘調査はあまりなされていませんが、2004年に調査の機会を得ることができました。100㎡の狭い範囲でしたが、縄文時代中期（今から約4500年前）の竪穴住居が2軒発見されました。

径約4mの円形の掘り込みをもつ住居跡は、中央に炊事のため火を焚いた炉があります。径4mはこの時代のものとしては小さいものですので、小家族が住んでいたのでしょう。

そのうちの1軒からは沢山の土器が出土しています（写真）。勝坂式土器と呼ばれるこれらの土

器は力強い文様をもつのが特徴です。そのほかに、石の鏃や石の斧などの石器も出土しています。

土器は食材を貯蔵したり、煮たりするもので、石鏃は弓矢の先につける三角の尖った石器、石斧は、木を切ったり土を掘るために用いた石器です。

これらのことから、この住居に住んでいた人々は、弓矢で動物を獲ったり、斧で木を切って道具を作ったり、あるいは土器作りなどをして暮らしていたことがわかります。

江古田の森を切り開き、集落を構えた縄文人達は、森の恵みと江古田川の恵みに支えられて集落を運営していたのです。（つづく）



縄文人は、芸術的焼物に囲まれて暮らしていました。

平成20年度 歴史民俗資料館 事業予定

事業名	内容	対象・定員	期間
端午の節句	こどもの日として親しまれている端午の節句にちなんで五月人形などを展示	どなたでも	4/22~4/10
山崎家茶室書院公開	江戸時代の建造物である山崎家の茶室と書院を公開	どなたでも	4/26~5/6 10/1~11/30
歴史をかたる文化財	区南部の歴史を語るうえで欠かせない小谷津家文書を紹介	どなたでも	4/29~5/15
人形展	区民から寄贈された人形のコレクションを展示	どなたでも	4/29~5/25
オリンピックを読みましよう	東京オリンピックがどのように報道されたのか、当時の新聞を展示	どなたでも	7/1~8/31
むかしの中野がわかる物	土器や石器から30年くらい前の生活用品など中野の暮らしの様子がわかるものを展示	どなたでも	7/21~8/31
古文書講座	江戸時代の筆文字の解読法を学ぶ初心者対象の入門講座	区内在住・在勤・在学の方40名	9月~10月 全6回、土曜日(日時は未定)
江古田獅子舞の世界	江古田獅子舞の世界を、かつて使われていた道具や写真で紹介	どなたでも	9/13~11/2
江古田獅子舞入門	江古田獅子舞の歴史や言い伝えなどを学ぶ入門講座	区内在住・在勤・在学の方 定員未定	9月 全3回(日時は未定)
旧家の足あと	中野の旧家に伝わった江戸時代後期から昭和までの古文書を初公開	どなたでも	9/30~11/30
酉の市	酉の市にちなんで縁起物の熊手を展示	どなたでも	11/1~11/30
伝統芸能「能」の世界入門	能の謡いや舞を体験することにより能の歴史や楽しさを学ぶ入門講座	区内在住・在勤・在学の方20名	11月 2回(日時は未定)
ひらけるけしき	所蔵されている屏風の数々を展示	どなたでも	12/16~1/17
おひなさま展	江戸時代の次郎左衛門雛をはじめ、区内の旧家に伝わった雛人形の数々を展示	どなたでも	2/3~3/8

事業報告

各種事業経過

2007年10月～2008年3月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「ドキュメントなかの～今、よみがえる昭和の生活と記憶」 「おひなさま展」	10/13～11/25 2/9～3/9
所蔵名品展	「魔を祓う」 「れきみんミニ写真展～昭和への招待状」	12/11～1/13 2/1～3/23
年中行事展	「酉の市」 「お正月」	11/1～11/30 12/18～1/13
古文書講座	講師：大友一雄氏（国文学研究資料館教授） 講師：笠原綾氏（日本放送協会学園専任講師）	10/13・20・27
史跡めぐり	「沼袋・新井周辺の文化財めぐり」	11/3
体験講座	「伝統芸能〔能〕を知ろう」 講師：川口晃平氏（観世流能楽師）	11/7・14
企画展関連事業	講演会「旧家が残す中野の歴史文化」 講師：三隅治雄氏（芸能学会会長）	11/11
公開事業	秋季「山崎家茶室書院公開」	10/2～11/30
埋蔵文化財対応	中野六丁目16番民有地立会調査 弥生町一丁目29番民有地立会調査 松が丘二丁目28番区有地試掘調査（国庫補助金対象事業） 中央一丁目40番民有地立会調査 若宮二丁目60番民有地試掘調査 新井四丁目18番民有地立会調査 本町二丁目32番民有地立会調査 中野六丁目16番民有地試掘調査 弥生町六丁目2番民有地本発掘調査（広町遺跡） 若宮二丁目60番民有地本発掘調査（若宮遺跡） 江古田三丁目14番区有地立会調査 江古田一丁目35番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業） 白鷺二丁目29番民有地立会調査	9/19 10/10 10/30 11/5 11/7・8 11/9 11/15 11/19 12/7～ 12/10～21 1/15 2/26～27 3/10
そ の 他	昭和なつメロ鑑賞会・講演会 講師：八見雄三郎氏 小学校3・4学年総合学習見学12校	11/16・1/26・3/14 10月～2月

寄贈資料一覧

2007年4月～2007年12月

敬称略受入順

資 料 名	点数	氏 名
箱膳ほか	一括	土橋多恵
徴兵免除証ほか	一括	大野愛子
画集ほか	一括	小西豊子
町火消し出初式の絵ほか	一括	矢島幸雄
焼絵羽子板ほか	一括	富田敏郎
手回しミシン	1	清掃事務所
戦時郵便ほか	一括	中村敬和
大工道具	一式	安藤康弘
箱膳ほか	一括	大隅三千男
柱時計ほか	一括	仲町小学校
小学読本ほか	一括	若井良子

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

入館状況

2007年9月～2008年2月（延べ144日間）（人）

一 般	団 体	学校教育	合 計
12,719	343	1,045	14,107

発行年月日 2008年4月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03 (3319) 9221 FAX 03 (3319) 9119